

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク演習Ⅳ (2単位)		3. 科目番号	SSMP3161 PSMP3461
2. 授業担当教員	戎 弘志			
4. 授業形態	演習		5. 開講学期	春期・秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係				
7. 講義概要	<p>ソーシャルワーク演習は、演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと1年次から4年次まで断続的に学習するよう構成されています。これらの演習の主な学習方法は、グループ討議、文献調査、社会調査、情報収集、面接技法、ロールプレイ、モデリング等の多様な方法を用いて社会福祉実践の知識と技能を具体的に学習することを目的としています。</p> <p>演習Ⅳでは、実践モデルやアプローチに関する相談援助演習を中心に、今までに学習した内容を総合的に学習し理解を深めます。具体的には、ソーシャルワークに関する理論やアプローチを事例などを通して修得します。また社会福祉士国家試験問題等を参照し、関連する知識や理論についても学習を深めます。</p>			
8. 学習目標	<p>ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、下記の学習目標を達成することが期待されます。</p> <p>目標1：ソーシャルワークに関する理論やアプローチの特徴やポイントについて、明瞭な説明をすることができる。</p> <p>目標2：事例等を通して、理論やアプローチの実際をイメージすることができる。</p> <p>目標3：グループ活動や他者との意見交換などを通して自己の思考を整理し、発表することができる。</p> <p>目標4：社会福祉士国家試験問題等を参照して、知識や理論に対する理解を深める。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題1：問題解決アプローチについて、アプローチの視点とポイントをレポートにまとめる。</p> <p>課題2：行動変容アプローチについて、アプローチの視点とポイントをレポートにまとめる。</p> <p>課題3：家族システム論について、理論の視点とポイントをレポートにまとめる。</p> <p>※上記課題につき、すべてA4用紙 40文字×30行×2枚以内(科目名、提出日、学籍番号、氏名などを明記すること)</p>			
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】 社団法人日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士 相談援助演習』第2版、中央法規出版、2015年。</p> <p>【参考書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅱ』第3版、中央法規出版、2015年。</p>			
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>・ソーシャルワーク演習Ⅳが終了した時点で、社会福祉士として求められる実践理論(実践アプローチ)をクライアントに提供できる。そのために設定された具体的目標(4つの目標)を達成することができたか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 個人レポート(課題1～3) 60%</p> <p>2. 演習への参加度・取り組み 40%</p> <p>なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。</p>			
12. 受講生への メッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としています。目的達成のため、受講生は以下の条件を守って下さい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講しましょう。受講生には積極的な態度を望みます。 2. 自ら進んで教員に質問しましょう。理解できないことをそのまま放っておかないようにしましょう。 3. 授業は欠席、遅刻、早退をしないで下さい。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告して下さい。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行います。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であってもF評価になるので注意して下さい。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話などの操作は緊急時以外、絶対にしないで下さい。 <p>また教員は、以下のことを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行います。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明します。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加(発言、発表等)できるよう双方向対話型の学習環境を作ります。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処します。 			
13. オフィスアワー	担当教員より初回の演習時に提示する。			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第1回	オリエンテーション(ソーシャルワーク演習Ⅳのねらいと単元の解説、授業の進め方について解説します)		事前学習	テキスト pp.182～185、また参考書 pp.137～142を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
	医学モデル・社会モデル・生活モデル① (医学モデル・社会モデル・生活モデルの概要について理解する)		事後学習	演習内容を整理し、テキストの該当箇所を再確認する。

第2回	医学モデル・社会モデル・生活モデル② (3つのモデルのうち、特に生活モデルについて事例を通じモデルの実践について理解を深める)	事前学習	テキスト pp.182～185 を熟読し、事例の理解に必要な用語や法制度について調べ、ノートにまとめる。
		事後学習	生活モデルのポイントについてノートにまとめる。
第3回	ストレングスマodel (事例を通して、クライアントに考え方と感情の関係について教えることを学びます)	事前学習	テキスト pp.186～189、また参考書 pp.140～142 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	ストレングスマodelのポイントについてノートにまとめる。
第4回	心理社会的アプローチ① (心理社会的アプローチの概念について理解を深める)	事前学習	テキスト pp.190～193、また参考書 pp.150～152 を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内〈学習方法〉に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第5回	心理社会的アプローチ② (ビネットを通して支援目標の設定と介入時の技法内容について学ぶ)	事前学習	テキスト pp.190～193 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	心理社会的アプローチのポイントについてノートにまとめる。
第6回	問題解決アプローチ① (問題解決アプローチの概念について理解を深める)	事前学習	テキスト pp.194～199、また参考書 pp.156～158 を熟読し、理論の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内〈学習方法〉に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第7回	問題解決アプローチ② (ビネットを通して問題解決アプローチのプロセスとその利点と課題を学ぶ)	事前学習	テキスト pp.194～199 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題1の作成(授業内で示された提出期限厳守)。
第8回	危機介入アプローチ① (危機介入アプローチの概念について理解を深める)	事前学習	テキスト pp.200～205、また参考書 pp.162～164 を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内〈学習方法〉に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第9回	危機介入アプローチ② (ビネットを通して危機介入アプローチの危機的状況のアセスメントについて学ぶ)	事前学習	テキスト pp.200～205 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	危機介入アプローチのポイントについてノートにまとめる。
第10回	行動変容アプローチ① (行動変容アプローチの概念について理解を深める)	事前学習	テキスト pp.206～209、また参考書 pp.165～167 を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内〈学習方法〉に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第11回	行動変容アプローチ② (ビネットを通して行動変容アプローチの考えたかと相談援助のプロセスについて学ぶ)	事前学習	テキスト pp.206～209 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題2の作成(講義内で示された提出期限厳守)。
第12回	ナラティブアプローチ① (ナラティブアプローチの概念について理解を深める。)	事前学習	テキスト pp.220～225、また参考書 pp.178～181 を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内〈学習方法〉に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第13回	ナラティブアプローチ② (ビネットを通してナラティブアプローチのドミナントストーリーの弊害とオルタナティブストーリー可能性について理解を深める)	事前学習	テキスト pp.220～225 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	ナラティブアプローチのポイントについてノートにまとめる。
第14回	家族システム論① (家族システム論の概念について理解を深める)	事前学習	テキスト pp.226～231 を熟読し、理念の概念についてノートにまとめる。
		事後学習	テキスト内〈学習方法〉に対して、演習での話し合いをもとに自身の考えをノートにまとめる。
第15回	家族システム論② (家族システム論の視点と相談援助のプロセスについて学ぶ)	事前学習	テキスト pp.226～223 を熟読し、不明な点は箇条書きにしてノートにまとめる。
		事後学習	課題3の作成(講義内で示された提出期限厳守)